

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業
(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)
分担研究報告書

小児気管支喘息有症率と親の学歴との関連に関する研究

研究分担者 小田嶋 博 国立病院機構福岡病院 副病院長
研究協力者 本村知華子 国立病院機構福岡病院

研究要旨：小児気管支喘息の有症率と家族の学歴との関係また収入との関連については諸外国では報告があるものの国内での報告は極めて少ない。我々は2002年のinternational study of asthma and allergies in childhood (ISAAC)調査の際に一部の小学校で説得に応じてもらえ、この内容に関する調査を実施することができた。その結果について集計・報告することを目的とした。

その結果、母親の学歴が高いほうが、鼻症状・花粉症・発疹・アトピーの症状が有意にみられた。また、母親の学歴が低い方が、発語障害が出るほどの発作がみられた。それ以外の症状の重症度と母親の学歴は有意差がなかった。

A. 研究目的

小児喘息の有症率と家族の学歴や収入との関連は諸外国では報告があるが国内での報告は極めて少ない。また、この様な内容に関する問診票調査は困難である場合が少なくない。我々は2002年のinternational study of asthma and allergies in childhood (ISAAC)調査の際にこの内容に関する調査を実施することを、各学校で交渉したが、ほとんどの学校で拒否された。特に、収入に関しては全く強力は得られなかったが、一部の学校で、説得に応じてもらえ、学歴に関する調査ができた。その結果について報告することを目的とした。

B. 研究方法

2006年に行われたISAAC調査時にそのマニュアルに従って調査を実施した。全体の有症率等には既に報告している。今回の対象は11小学校923人の小学生。学歴に関しては、中学校卒業、高等学校卒業、専門学校以上の3種類の選択肢が用意された。喘息、アレルギー疾患の

診断はISAAC第3相の診断基準によった。

C. 研究結果

今回の調査では母親で中学校卒業者11名のみであった。高校卒業者は251名、482名が短大以上の卒業であった。そこで、11名の中学卒業者を除いて、高校卒業者と短大以上の卒業者にに関して比較検討した。

2 検定による結果：母親の学歴が高いほうが、鼻症状・花粉症・発疹・アトピーの症状が有意にみられた。母親の学歴が低い方が、発語障害が出るほどの発作がみられた。それ以外の症状の重症度と母親の学歴は有意差がなかった。オッズ比による検討：発語障害が出るほどの発作は母親の学歴が低い方が発生率は4.47倍になった。鼻症状は母親の学歴が高い方が発生率は2.22倍になった。花粉症は母親の学歴が高い方が発生率は2.45倍になった。発疹は母親の学歴が高い方が発生率は1.99倍になった。アトピーは母親の学歴が高い方が発生率は1.78倍になった。

D.E. 考察・結論

諸外国の報告では、母親の学歴が低い方が喘息の重症度が高いとするものが多い傾向にある。本邦では、その特殊性から、家族の学歴との関連は調査しにくい。福岡市で行った ISAAC 第 III 相の調査でも、ほとんどの学校でこれに関する問診項目は削除するようと言われ、これを行うのなら調査全体に協力できないという学校も多かった。今回の結果に対する、考察は諸々に考えられるものの、1 つの事実として報告しておきたい。

F. 健康危険情報

今回の検討においては特に存在しない。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 小田嶋 博・赤澤 晃・他：喘息重症度分布経年変推移に関する多施設検討 2012 年度報告、日本小児アレルギー学会誌、27(1): 116-123、2013 .

2. 西間 三馨・小田嶋 博・他：西日本小学児童におけるアレルギー疾患有症率調査 1992,2002,2012 年の比較 -、日本小児アレルギー学会誌第 27 巻第 2 号；149-178、2013.

3. 小田嶋 博：思春期に至った喘息の特徴、アレルギー免疫、20；9：45-54,2013 .

4. 小田嶋 博：子どもの運動誘発喘息(EIA)、教育と医学 2013、No723、16-24

2. 学会発表

1. 小田嶋 博：学校保健課題解決支援事業に期待するもの～小児科臨床医の立場から～、福岡県学校保健課題解決支援事業研修会、2013 年 1 月 23 日、福岡

2. 小田嶋 博：思春期喘息 - 鼻炎との関連を含めて -、第 7 回広島気道アレルギー研究会、2013 年 5 月 31 日、広島

3. 小田嶋 博：運動誘発喘息(小児の臨床から)

第 23 回国際喘息学会日本・北アジア部会、2013 年 6 月 28 日、東京

4. 本村 知華子・小野 倫太郎・綿貫 圭介・村上 洋子・田場 直彦・網本 裕子・本荘 哲・小田嶋 博：副鼻腔炎により気管支喘息は重症になるのか～10 歳未満の検討、ポスター、第 50 回日本小児アレルギー学会、2013 年 10 月 19 日～20 日、パシフィコ横浜

5. Odajima H, Amimoto Y, Murakami Y, Motomura C: Prevalence of asthma and allergies and family's education grade in Japan, ERS ANNUAL CONGRESS2013、7-11 September、Spain

6. Odajima H, Amimoto Y, Motomura C: Serum periostin and exercise-induced asthma, ERS ANNUAL CONGRESS2013、7-11 September、Spain

7. Murakami Y, Amimoto Y, Masumoto N, Odajima H: Utility of salivary cortisol in corticotropin releasing hormone(CRH)test in asthmatics, ERS ANNUAL CONGRESS2013、7-11 September、Spain

8. 本村知華子、小田嶋 博、他：思春期気管支喘息患者における気道過敏性に性別が与える影響、第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会、2013 年 11 月 28～30、東京

9. 本荘 哲・村上 洋子・小田嶋 博・赤澤 晃、他：運動誘発喘息とロイコトリエン受容体拮抗薬及び吸入ステロイド使用との関係、第 63 回日本アレルギー学会秋季大会、2013 年 11 月 28、東京

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定も含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし